

公立大学法人富山県立大学 平成28事業年度に係る  
業務の実績に関する報告書の概要

## ○自己評価結果の概要

大項目	項目数	自己評価結果（結果別の項目数）			
		IV	III	II	I
第1 教育に関する目標を達成するための措置 〔報告書 P.2～10〕	76	2	71	3	
第2 研究に関する目標を達成するための措置 〔報告書 P.11～17〕	30	1	29		
第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置 〔報告書 P.18～24〕	39	1	37	1	
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 〔報告書 P.25～28〕	16	1	15		
第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 〔報告書 P.29～31〕	11		11		
第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置 〔報告書 P.32～33〕	4		4		
第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置 〔報告書 P.34～35〕	11		10	1	
合計 (うち再掲を除く)	187 (124)	5 (3)	177 (119)	5 (2)	0 (0)

## &lt;法人による自己評価基準&gt;

- IV 「計画を上回って実施している」  
III 「概ね計画どおりに実施している」  
II 「計画をやや下回っている」  
I 「計画を大幅に下回っている」

## 【報告書の主な内容】※特記事項より抜粋

## 【1 教育】

- 優秀な学生の確保  
北関東、長野、東海地域でのポスター掲示や、県内外での大学説明会や高校訪問、全高校生へのチラシ配布などあらゆる機会を通じた学科拡充の周知と学生募集活動の充実強化。一般入試前期日程における長野会場の新設。
- 地方創生に向けた教育の推進  
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)による富山大、富山国際大と共同での「とやま人材育成を考える会」の立ち上げや、本学学生の県内企業における課題解決型長期インターンシップへの参加(4社、8名)。3大学共同での新たなインターンシップ報告会の開催。
- 魅力ある教育施設の整備  
学生定員の増加に対応するため、厚生棟・体育館に談話・学習室の新設、ロッカー室、女子更衣室の拡充等を行うとともに、駐車場(180台分)、駐輪場(300台分)を整備。
- 学生の学習意欲の向上に向けた取組み  
成績優秀な本学卒業生で本大学院への進学者に対する「大谷米太郎記念基金事業による修学奨学金」の給付制度の周知。
- <昨年度の評価結果における「今後の課題」への対応>
- 県内企業への就職率向上に向けた取組みの強化  
・就職指導担当参与と地域就職アドバイザーによる県内企業訪問による人材ニーズ把握や採用の依頼  
・大学院生を対象としたヒアリングを行ない、県内就職率向上に向けた対策を検討し、業界研究会を実施。  
・県内企業に就職した県外出身卒業生の生活の安定に資するため、14件、1,401千円の住居費を助成。

## 【2 研究】

- 工学部5学科の教育研究分野の拡充及び入学定員の増等への対応  
平成29年度の情報システム工学科及び環境工学科の名称変更及び収容定員の増と新設する医薬品工学科について所要の準備を進めるとともに、ロボット分野の教育研究を充実強化した知能デザイン工学科の教育研究内容をよりわかりやすく示すため、平成30年度に学科名称を「知能ロボット工学科」に変更することとし、文部科学省等との協議を終了。
- 戦略的創造研究推進事業(ERATO)について  
国立研究開発法人科学技術振興機構が実施する戦略的創造研究推進事業(ERATO)は、本年度が最終年度であり、平成28年10月に公表された事後評価(予備評価)報告書において、「戦略目標である『二酸化炭素の効率的資源化の実現のための植物光合成機能やバイオマスの利活用技術等の基盤技術の創出』の達成に資する十分な成果が得られる」と研究成果に高い評価を受けた。

## 【3 地域貢献】

- 地(知)の拠点整備事業(COC事業)と地域を志向した取組み  
10名程の少人数ゼミを中心に地域との対話・交流・協働を行う地域協働授業を実施するとともに、学生の成長度評価を実施。また、県内の自治体、企業や地域団体と協働し地域を志向した教育・研究・社会貢献に取組むなか、平成18年の射水市に続き、高岡市と産業、研究、地域振興等幅広い分野での連携、協力を内容とする協定を締結。
- 産学交流事業  
地域連携公開セミナー(6件)を実施。また、テーマ別研究会の4テーマの継続実施や、その発展形として共同研究に展開できる応用技術研究会(1件)を実施するなど、積極的な産学官金交流の促進。
- 国際的な学術交流の推進  
H28年度に、富山県で開催された2つの国際会議等について、その準備や運営等に本学教員が積極的に関わり、国際的な学術交流の推進等に寄与した。また、H29年度以降に開催予定の国際会議等についても、富山県等が取り組む本県開催の誘致について、本学教員が積極的に貢献した。

## 【4 業務運営の改善・5 財務内容の改善】

- 機動性の高い業務運営  
理事会、経営審議会を適時に開催し、法人運営や法人経営に関する重要事項について決定。
- 科学技術研究費の更なる獲得  
地域連携センターを拠点に国内外の企業・機関との共同研究を活発に展開し、多くの教員が積極的に科学研究費補助金などの競争的研究資金の申請に努め、科学研究費補助金については、採択件数、新規採択率ともに前年度より増加。また、採択されている教員が、ほかの教員の申請についてアドバイスするなど採択率向上に努めた。

## 【6 自己点検評価及び情報提供】

- 法人評価及び大学機関別認証評価への対応  
公立大学法人化に伴う法人評価を受け、その結果を公表。大学機関別認証評価に適切に対応し、その結果を公表。
- 積極的な広報の推進  
学科拡充・新設などの周知を図るため、各種パンフレットの作成・配布、バスラッピング、デジタルサイネージ、鉄道駅での広告掲出や、特設webページの開設など広報活動を積極的に実施。また、スマートフォン対応のため大学ホームページを改修。

## 【7 その他の業務運営】

- <昨年度の評価結果における「今後の課題」への対応>
- 学生等に対する防災教育の強化などソフト対策の拡充等  
防災訓練の内容を見直し、環境工学科棟では、本年度から毎年、学生等の避難訓練を実施するとともに、講義時間中に実施するなど、学生も多く参加してより実践的な訓練となるよう努めた。また、老朽化著しい環境工学科棟には、わかりやすい避難経路図を掲示。なお、危機管理マニュアルの策定には至らなかった。

【参考1】「平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書」より (※自己評価結果「IV」及び「II」関係部分 抜粋)

第1 教育に関する目標を達成するための措置			
中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>2 教育内容及び教育の成果に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(1) 教育内容の充実</b>			
<b>イ 教育方法の工夫・改善</b> ・地(知)の拠点整備事業(COC(center of community)事業)の活用など、学生が主体的に地域・研究課題に取り組む教育プログラムを促進する。	・地(知)の拠点整備事業(COC事業)の実施により、学生が主体的に地域・研究課題に取り組む地域協働科目を開講し、学生の「社会参画力」、「課題解決力」を育成する。	・10名程度の少人数ゼミを中心に、地域との対話・交流・協働を行う地域協働授業を70ゼミで実施(前年度(65ゼミ)よりも増加)するとともに、学生の成長度評価を実施した。 ・地域協働授業の教員向け運営マニュアルを作成し、教員の授業運営を支援した。	IV
<b>(2) 特色ある教育の推進</b>			
<b>エ キャリア教育の推進&lt;重点&gt;</b> ・県内企業への就職率向上に向け、県内就職促進員の配置、県外出身学生と保護者への富山の魅力発信、中小企業をはじめとする県内企業の魅力の発信などの取組みの充実を図る。	・県内企業への就職活動を支援する専任の県内就職促進員をキャリアセンターに引き続き配置し、企業の人材ニーズ把握や採用を促進するため県内企業を訪問するなど、卒業生の県内就職促進を図る。	・就職指導担当と地域就職アドバイザーが県内企業7社を訪問し、企業の人材ニーズ把握や採用を依頼した。また、大学院生を対象としたヒアリングを行ない、県内就職率向上に向けた対策を検討し、大学院生向け業界研究会を実施した。しかし、県内就職促進の向上には至らず、平成29年度には取組みの充実を図ることとしている。	II
<b>4 学生への支援に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(1) 学生支援</b>			
<b>エ 学生の意欲向上を図る仕組みの創設</b> ・学生が学習や生活に対して、自ら意欲的に取り組むことを促すため、顕彰制度を創設するなど意欲向上を図る仕組みづくりに努める。	・大谷米太郎記念基金事業を活用し、成績優秀な本学卒業生であって本大学院に進学した者に対し、修学奨学金を支給する。(平成27年度開始)	・優秀な学生の修学意欲をより向上させるよう、給付制度の周知を図った。 ・5人の大学院生に修学奨学金を支給した。	IV

第2 研究に関する目標を達成するための措置																																																																										
中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価																																																																							
<b>2 研究実施体制に関する目標を達成するための措置</b>																																																																										
<b>(1) 研究実施体制の充実</b>																																																																										
<b>ア 教育研究組織の見直し&lt;重点&gt;</b> ・産業界等の喫緊のニーズ等に応え、県内企業への人材供給を一層促進するため、学科や講座のあり方について学外有識者及び関係団体等との意見交換を行うなど検討を進め、平成29年4月を目途に、5学科全てについて入学定員の増員と教育研究分野の拡充を行う。	・工学部について県内産業のニーズ等に即した教育研究の充実を図るため、次のとおり各学科を拡充することとし、早急にその準備を進める。	・工学部の学科拡充を積極的に進めるため、本年度の機械システム工学科及び知能デザイン工学科の収容定員の増等に続き、平成29年度の情報システム工学科及び環境工学科の名称変更及び収容定員の増と、新設する医薬品工学科について、所要の準備を進めるとともに、学科の拡充等に伴う広報や学生募集活動等を積極的に実施した。  ・また、本年度からロボット分野の教育研究を充実強化した知能デザイン工学科の教育研究内容をよりわかりやすく示すため、平成30年度に学科名称を「知能ロボット工学科」に変更することとし、文部科学省等との所要の協議を終了した。	IV																																																																							
<p>工学部の拡充計画(学科名、入学定員等)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>充実強化する分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械システム工学科 50名</td> <td>60(10増)</td> <td>60</td> <td>複合材料</td> </tr> <tr> <td>知能デザイン工学科 50名</td> <td>60(10増)</td> <td>60</td> <td>ロボット関連</td> </tr> <tr> <td>情報システム工学科 50名</td> <td>50</td> <td>電子・情報工学科 80(30増)</td> <td>電気・電子デバイス IoT・ビックデータ</td> </tr> <tr> <td>環境工学科 40名</td> <td>40</td> <td>環境・社会基盤工学科 55(15増)</td> <td>防災・まちづくり</td> </tr> <tr> <td>生物工学科 40名</td> <td>40</td> <td>40</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>医薬品工学科 35(新設)</td> <td>製薬化学・バイオ医薬</td> </tr> <tr> <td>合計 230名</td> <td>250(20増)</td> <td>330(2年で100増)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		平成27年度	28年度	29年度	充実強化する分野	機械システム工学科 50名	60(10増)	60	複合材料	知能デザイン工学科 50名	60(10増)	60	ロボット関連	情報システム工学科 50名	50	電子・情報工学科 80(30増)	電気・電子デバイス IoT・ビックデータ	環境工学科 40名	40	環境・社会基盤工学科 55(15増)	防災・まちづくり	生物工学科 40名	40	40				医薬品工学科 35(新設)	製薬化学・バイオ医薬	合計 230名	250(20増)	330(2年で100増)		<p>工学部の拡充計画(学科名、入学定員等)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>充実強化分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械システム工学科 50名</td> <td>60(10増)</td> <td>60名</td> <td>60名</td> <td>複合材料</td> </tr> <tr> <td>知能デザイン工学科 50名</td> <td>60(10増)</td> <td>60名</td> <td>60名</td> <td>ロボット関連</td> </tr> <tr> <td>情報システム工学科 50名</td> <td>50名</td> <td>電子・情報工学科 80名(30増)</td> <td>知能ロボット工学科 80名</td> <td>電気・電子デバイス IoT・ビックデータ</td> </tr> <tr> <td>環境工学科 40名</td> <td>40名</td> <td>環境・社会基盤工学科 55名(15増)</td> <td>55名</td> <td>防災・まちづくり</td> </tr> <tr> <td>生物工学科 40名</td> <td>40名</td> <td>40名</td> <td>40名</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>医薬品工学科 35名(新設)</td> <td>35名</td> <td>製薬化学・バイオ医薬</td> </tr> <tr> <td>合計 230名</td> <td>250(20増)</td> <td>合計 330名(2年で100増)</td> <td>合計 330名</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成27年度	28年度	29年度	30年度	充実強化分野	機械システム工学科 50名	60(10増)	60名	60名	複合材料	知能デザイン工学科 50名	60(10増)	60名	60名	ロボット関連	情報システム工学科 50名	50名	電子・情報工学科 80名(30増)	知能ロボット工学科 80名	電気・電子デバイス IoT・ビックデータ	環境工学科 40名	40名	環境・社会基盤工学科 55名(15増)	55名	防災・まちづくり	生物工学科 40名	40名	40名	40名				医薬品工学科 35名(新設)	35名	製薬化学・バイオ医薬	合計 230名	250(20増)	合計 330名(2年で100増)	合計 330名	
平成27年度	28年度	29年度	充実強化する分野																																																																							
機械システム工学科 50名	60(10増)	60	複合材料																																																																							
知能デザイン工学科 50名	60(10増)	60	ロボット関連																																																																							
情報システム工学科 50名	50	電子・情報工学科 80(30増)	電気・電子デバイス IoT・ビックデータ																																																																							
環境工学科 40名	40	環境・社会基盤工学科 55(15増)	防災・まちづくり																																																																							
生物工学科 40名	40	40																																																																								
		医薬品工学科 35(新設)	製薬化学・バイオ医薬																																																																							
合計 230名	250(20増)	330(2年で100増)																																																																								
平成27年度	28年度	29年度	30年度	充実強化分野																																																																						
機械システム工学科 50名	60(10増)	60名	60名	複合材料																																																																						
知能デザイン工学科 50名	60(10増)	60名	60名	ロボット関連																																																																						
情報システム工学科 50名	50名	電子・情報工学科 80名(30増)	知能ロボット工学科 80名	電気・電子デバイス IoT・ビックデータ																																																																						
環境工学科 40名	40名	環境・社会基盤工学科 55名(15増)	55名	防災・まちづくり																																																																						
生物工学科 40名	40名	40名	40名																																																																							
		医薬品工学科 35名(新設)	35名	製薬化学・バイオ医薬																																																																						
合計 230名	250(20増)	合計 330名(2年で100増)	合計 330名																																																																							

第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置			
中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>2 安全管理等に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(1) 安全衛生管理</b>			
・災害時・緊急時等の危機管理マニュアルの策定や防災訓練の内容の随時見直しなど、危機管理体制を整備する。	・危機管理マニュアルの整備及び防災訓練等を実施するなど、全学的な安全管理、危機管理体制の整備を進める。	・例年の防災訓練の内容を見直し、特に環境工学科棟においては、本年度から、毎年、学生等の避難訓練を実施することとした。また、講義時間中に訓練を開始するなど、学生も多く参加して、より実践的な訓練となるよう努めた。 ・老朽化が著しい環境工学科棟については、学生等がより迅速に避難できるよう、わかりやすい避難経路図を掲示した。 ・危機管理マニュアルは策定に至らず、平成29年度の策定を予定している。	II

【参考2】昨年度の評価結果における「今後の課題」への対応状況について

【課題その1】 県内企業就職率の上昇に向けた更なる取組みの強化

＜平成28年度の対応状況等（「平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書」より抜粋）＞

第1 教育に関する目標を達成するための措置				
中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価	
<b>2 教育内容及び教育の成果に関する目標を達成するための措置</b>				
<b>(2) 特色ある教育の推進</b>				
<b>エ キャリア教育の推進《重点》</b> ・学生のキャリア形成につながる実践的かつ体系的なプログラムを、入学から卒業まで一貫して実施する。 ・学生の自立心や社会性を涵養し、実戦力や就業力を育成するため、キャリア教育の内容の充実に努めるとともに、企業や専門機関などとの連携を促進する。 ・学生のキャリア形成支援を行うキャリアセンターの取組みを強化する。	・進路ガイダンス、企業を知る木曜日(シルモク)、学内合同企業説明会、個別の就職指導等を実施するとともに、県内関係機関で開催される各種就職ガイダンス等への学生の積極的な参加を促す。	・進路ガイダンス、企業を知る木曜日(シルモク)、学内合同企業説明会、個別の就職指導等を計画どおり実施した。なお、学生の積極的な参加を促し、シルモクの参加人数は、昨年の80名から600名程(前期88名、後期500名)になるなど大幅に増加した。	Ⅲ	
	・県内企業への就職活動を支援する専任の県内就職定着促進員をキャリアセンターに引き続き配置し、企業の人材ニーズ把握や採用を促進するため県内企業を訪問するなど、卒業生の県内就職定着を促進する。	・就職指導担当参与と地域就職アドバイザーが県内企業7社を訪問し、企業の人材ニーズ把握や採用を依頼した。また、大学院生を対象としたヒアリングを行ない、県内就職率向上に向けた対策を検討し、大学院生向け業界研究会を実施した。しかし、県内就職定着の向上には至らず、平成29年度には取り組みの充実に努めることとしている。	Ⅱ	
	・県内のものづくり技術や県内企業等の理解促進等を図るため、県内企業の経営者や技術者等を外部講師として、富山のものづくり産業講座を開講する。	・「機械システム工学特別講義」(機械)、「知能デザイン工学特別講義2」(知能)、「企業経営概論」(情報・環境)において、県内企業の経営者や技術者等を講師として招き、県内企業の魅力や特徴の紹介なども含めた講義を行った。	Ⅲ	
	・学生と企業の若手社員の元気交流会の開催や、県外出身学生の保護者に対する富山の情報掲載パンフレットの送付など、学生、保護者へ富山や富山の企業の魅力を発信し、県内就職の促進を図る。	・学生と企業の若手社員の元気交流会を2回開催するとともに、県外出身教員と県外出身学生等との意見交換会を2回開催(環境:9名、生物:12名)し、県内就職の促進を図った。	Ⅲ	
	・県内企業に就職した県外出身卒業生に対して、生活の安定を図るため、住居費の助成に取り組む。	・県内企業に就職した県外出身卒業生の生活の安定に資するため、14件、1,401千円の住居費助成を行った。	Ⅲ	
<b>4 学生への支援に関する目標を達成するための措置</b>				
<b>(3) キャリア形成支援《重点》</b>				
※すべて再掲項目				
<b>イ 企業などと連携したインターンシップ制度の推進</b> ・学生の職業意識や実社会での実践的な能力が育成されるよう、企業や団体などとの連携体制及び活動内容を充実する。 <b>ウ キャリアセンター事業の強化・充実</b> ・学生が目指す進路の実現を目指し、キャリアセンターにおける就職・進学支援の取組みの充実に努める。	・県内のものづくり技術や県内企業等の理解促進等を図るため、県内企業の経営者や技術者等を外部講師として、富山のものづくり産業講座を開講する。【再掲】(第1-2-(2))	・「機械システム工学特別講義」(機械)、「知能デザイン工学特別講義2」(知能)、「企業経営概論」(情報・環境)において、県内企業の経営者や技術者等を講師として招き、県内企業の魅力や特徴の紹介なども含めた講義を行った。	Ⅲ	
	・県内企業に就職した県外出身卒業生に対して、生活の安定を図るため、住居費の助成に取り組む。【再掲】(第1-2-(2))	・県内企業に就職した県外出身卒業生の生活の安定に資するため、14件、1,401千円の住居費助成を行った。	Ⅲ	
	・学生と企業の若手社員の元気交流会の開催や、県外出身学生の保護者に対する富山の情報掲載パンフレットの送付など、学生、保護者へ富山や富山の企業の魅力を発信し、県内就職の促進を図る。【再掲】(第1-2-(2))	・学生と企業の若手社員の元気交流会を2回開催するとともに、県外出身教員と県外出身学生等との意見交換会を2回開催(環境:9名、生物:12名)し、県内就職の促進を図った。	Ⅲ	
	・県内企業への就職率向上に向け、県内就職定着促進員の配置、県外出身学生と保護者への富山の魅力発信、中小企業をはじめとする県内企業の魅力の発信などの取組みの充実に努める。	・県内企業への就職活動を支援する専任の県内就職定着促進員をキャリアセンターに引き続き配置し、企業の人材ニーズ把握や採用を促進するため県内企業を訪問するなど、卒業生の県内就職定着を促進する。【再掲】(第1-2-(2))	・就職指導担当参与と地域就職アドバイザーが県内企業7社を訪問し、企業の人材ニーズ把握や採用を依頼した。また、大学院生を対象としたヒアリングを行ない、県内就職率向上に向けた対策を検討し、大学院生向け業界研究会を実施した。しかし、県内就職定着の向上には至らず、平成29年度には取り組みの充実に努めることとしている。	Ⅱ
	・学生就職支援に関わる県内関係機関との連携を密にし、各種就職ガイダンスなどへの学生の積極的な参加を促進する。	・進路ガイダンス、企業を知る木曜日(シルモク)、学内合同企業説明会、個別の就職指導等を実施するとともに、県内関係機関で開催される各種就職ガイダンス等への学生の積極的な参加を促す。【再掲】(第1-2-(2))	・進路ガイダンス、企業を知る木曜日(シルモク)、学内合同企業説明会、個別の就職指導等を計画どおり実施した。なお、学生の積極的な参加を促し、シルモクの参加人数は、昨年の80名から600名程(前期88名、後期500名)になるなど大幅に増加した。	Ⅲ

【課題その2】 学生等に対する防災教育の強化などソフト対策の拡充や計画的な修繕等にしっかり取り組むこと

＜平成28年度の対応状況等（「平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書」より抜粋）＞

第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置			
中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>1 施設設備の整備に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(1) 研究実施体制の充実</b>			
・施設設備を定期的に点検し、機能や安全性が確保された教育研究環境の維持・向上に努める。	・施設設備の定期点検を適切に実施するとともに、必要に応じて修繕、設備更新を行う。	・大学施設設備の定期巡回や、教職員・学生からの連絡により故障箇所等を発見し、適宜、所要の修繕等を行った。 ・耐震強度の不足箇所等がある一部の校舎については、現在、平成32年度の供用を目指して新校舎を建設することとし、必要な予算を措置するなど、その取組みを進めた。	Ⅲ
<b>2 安全管理等に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(1) 安全衛生管理</b>			
・災害時・緊急時等の危機管理マニュアルの策定や防災訓練の内容の随時見直しなど、危機管理体制を整備する。	・危機管理マニュアルの整備及び防災訓練等を実施するなど、全学的な安全管理、危機管理体制の整備を進める。	・例年の防災訓練の内容を見直し、特に環境工学科棟においては、本年度から、毎年、学生等の避難訓練を実施することとした。また、講義時間中に訓練を開始するなど、学生も多く参加して、より実践的な訓練となるよう努めた。 ・老朽化が著しい環境工学科棟については、学生等がより迅速に避難できるよう、わかりやすい避難経路図を掲示した。 ・危機管理マニュアルは策定に至らず、平成29年度の策定を予定している。	Ⅱ

【参考3】

公立大学法人富山県立大学中期計画 数値指標に係る状況等

項目	目標値	期間等
<b>第1 教育に関する目標を達成するための措置</b>		
1 志願倍率	5倍台	期間平均
2 入学者県内比率	30%代後半	期間平均
3 学部卒業生の大学院(修士課程)進学率	40%程度	期間末まで
4 地域協働科目実施教員割合	80%以上	期間末累計
5 学生満足度(アンケート) ※授業科目の内容をある程度理解できた学生の割合	80%以上	期間平均
6 就職内定率	100%	期間内(各年度)
7 県内企業就職率	50%以上	期間末まで
(参考:COE+事業 KPI目標値	55%以上	)

H28年度評価実績	(説明)
4.3 倍	H27~28年度の単純平均
39.4 %	H27~28年度入学者総数のうち県内出身者の割合
35.4 %	計画期間の最新年度(28年度)の進学率
65.8 %	計画期間の最新年度(28年度)の割合
80.0 %	H27~28年度の単純平均
99.5 %	計画期間の最新年度(28年度)の内定率
41.9 %	計画期間の最新年度(28年度)の就職率

<参考>各年度の状況(単年度)

H28年度	H27年度	備考
3.6	4.9	
38.4	40.6	
35.4	32.0	
65.8	59.8	
80.0	80.0	
99.5	100.0	
41.9	42.8	

項目	目標値	期間等
<b>第2 研究に関する目標を達成するための措置</b>		
8 科学研究費補助金の採択件数(年間)	50件	期間平均
9 受託研究件数(年間)	25件	期間平均
10 共同研究件数(年間)	65件	期間平均

H28年度評価実績	(説明)
59 件	H27~28年度の単純平均
21 件	H27~28年度の単純平均
66 件	H27~28年度の単純平均

H28年度	H27年度	備考
63	54	
26	16	
60	71	

項目	目標値	期間等
<b>第3地域貢献に関する目標を達成するための措置</b>		
11 若手エンジニアステップアップセミナー受講者数(年間)	80人	期間平均
12 公開講座受講者数(年間)	320人	期間平均
13 地域課題解決に向けた企業、NPO等などの連携団体数	30団体	期間末累計
14 学生の海外体験者数	90人	期間末累計
15 留学生の在学者数	30人以上	期間末まで
16 学術交流協定締結数	15件	期間末累計

H28年度評価実績	(説明)
77 人	H27~28年度の単純平均
540 人	H27~28年度の単純平均
81 団体	計画期間の最新年度(28年度)末現在の団体数
53 人	計画期間の最新年度(28年度)末現在の累積体験者数
34 人	計画期間の最新年度(28年度)末現在の留学生数
13 件	計画期間の最新年度(28年度)末現在の協定締結数

H28年度	H27年度	備考
93	61	
396	684	
81	74	
28	25	
34	26	
13	13	